



2015年10月28日

アウディ ジャパン株式会社  
プレス問い合わせ 03-5475-6309  
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120-598-106  
アウディコミュニケーション センター

## 新型 Audi Q7

—ご参考資料—

- ・従来型より最大 300kg 以上も軽くなった重量（ボディ単体で 71kg 軽量化）
- ・わずか 0.32 という大型 SUV としては非常に優れた Cd 値
- ・従来型より外寸を小さくしながら拡大された室内長、さらに改善された居住性
- ・SUV モデルでは初採用となるアウディバーチャルコックピット
- ・初のプラグインハイブリッドを採用した e-tron 2.0 TFSI quattro を用意

Audi Q7 は、最大 7 人乗りの広いキャビンを備えた上質で多目的に使えるプレミアム SUV です。ヨーロッパで 2005 年にデビューした初代モデルは、時代を先取りした快適でスポーティでスタイリッシュなプレミアムクロスオーバーとして、国際的に市場で人気を博しました。9 年半ぶりにモデルチェンジされ発表されたこの 2 代目モデルは、従来型と比べてボディが最大 300kg 以上も軽くなっており、さらにクラス最大級の居住スペースとラゲージ容量、効率的なエンジンとあらゆる走行条件でトラクションを最適化する quattro フルタイム 4 輪駆動システム、低くなった重心点と全面的に再設計されたシャーシ、豊富に用意されたドライバー支援システムなどにより、セグメントのリーダーにふさわしい SUV に仕上がっています。

エンジン性能も、4 輪駆動を採用した大型 SUV のなかでは、トップレベルの値を実現しています。エンジンは 185kW (252PS) と 370Nm を発揮する 2.0 TFSI と 245kW (333PS) の 3.0 TFSI (V6) の 2 タイプ用意されており、後者を搭載した新型 Audi Q7 3.0 TFSI quattro は、0-100km/h を 6.1 秒で加速。また、プレミアムセグメントの SUV として初めてプラグインハイブリッドと quattro フルタイム 4 輪駆動システムを採用した新型 Audi Q7 e-tron 2.0 TFSI quattro (詳細資料は別途) は、270kW (367PS)、700Nm という強烈なシステムパワー、トルクを発揮する一方、NEDC (新しいヨーロッパの走行サイクル) のモードで、100km 走行あたりの燃料消費をわずか 2.5ℓ、CO<sub>2</sub> 排出量も 60g/km 以下に抑えています。フル充電の状態であれば、電気モーターだけで約 50km の距離を走行することが可能です。

新型 Audi Q7 はまた、操作方式やインフォテイメント、コネクティビティ、ドライバー支援システムといった面でも、新たなスタンダードを打ち立てています。第 2 世代のモジュラーインフォテイメントプラットフォームが搭載され、さらにアウディバーチャルコックピットも、SUV として初めて設定されました。大型タッチパッドを備えた新しい MMI コントロールユニットにより、あらゆる操作が簡単になっています。ほかにも、魅力的な革新機構として、提供するサービスをさらに拡充させた Audi connect、3D オーディオを備えた 2 つのオーディオシステムなどが挙げられます。

新型 Audi Q7 のもうひとつのハイライトは、充実したドライバー支援システムのラインナップです。そのなかには、交通渋滞支援システムを備えたアダプティブクルーズコントロールも含まれます。今日世界で、これ以上充実したドライバーアシスタンスシステムのラインナップを揃えている市販 SUV はほかにありません。

## Technical Information : 詳細説明

### 71kg 軽くなったボディ

新型 Audi Q7 は、堂々たる体躯を持つと同時に、このクラスでは最も優れた全高 / 重量比を備えた SUV の 1 台です。全長 5.05m、ホイールベース 2.99m、全幅 1.97m、全高 1.74m のボディは、従来型のモデルと比べると全長と全幅が小さくなっている一方で、キャビン部分の比率が大きくなり、室内居住性は改善されています。

新型 Audi Q7 には、アウディの軽量設計に関する 20 年間の技術の蓄積が集約されています。ベースモデルの重量は 2.0 t 以下に抑えられており、従来型モデルと比較すると、エンジン仕様によっては最大 325kg も重量が削減されています（欧州仕様での比較）。これはコンサート用グランドピアノ 1 台分に相当する重量です。軽量化に考慮した設計は、電装系からラゲージコンパートメントのフロアまで、あらゆる部分に適用されていますが、やはり最大のものは、複数の素材を組み合わせて構成したボディでしょう。この部分だけで、従来型比 71kg が削減されており、セグメントのなかで最軽量の部類に入るボディが実現しています。

熱間成型鋼板で作られたきわめて強度の高いパーツにより、キャビンの主要な骨格が形成されています。フロントエンドとリアエンド、及びキャビンの外殻には、鋳造アルミやアルミ押し出し材を採用しました。アルミ部品はボディ全体の 41 パーセントを占めています。そのほか、完全にアルミ製の部品は、ドア、フロントフェンダー、ボンネット、リアハッチなどで、そのうちドアだけで 24kg の重量が削減されています。アウディは、パーツの製造、組み立てにも新しい方法を導入しており、新型 Audi Q7 は、衝突時の安全性、乗員保護といった面でも、最高のレベルを達成しています。

### 高い静粛性と大型 SUV としては最良の Cd 値

プレミアムクラスならではの遮音処置により、どんな状況においても著しく高い室内静粛性が確保されており、それにより、堅牢にしてエレガントなクルマの印象がさらに強調されています。このクラスでもナンバーワンの静粛性は、ボディのショルダー部分に搭載されたサイドミラーなど、様々なコンポーネントの相乗効果により実現されました。

新型 Audi Q7 の Cd 値はわずか 0.32 であり、最新の技術的ノウハウにより、このクラスナンバーワンの数字が達成されています。ボディの下側は、ほぼ完全にカバーで覆われており、リアアクスルの部分に取り付けられた小さなスポイラーが、リフトを減らす役割を果たしています。

### 力強い存在感 : エクステリアデザイン

従来型 Audi Q7 と比べてボディプロポーションが変わっています。ボディサイズは、全高こそほとんど変わっていないものの、全長は 35mm 短くなり、全幅も 15mm 狭くなりました。その一方で、室内は、前席と後席の感覚が 21mm 拡がり、ヘッドルームも前席で 41mm、2 列目シートで 23mm、それぞれ拡がっています。

エクステリアデザインは、筋肉質で力強い意志が感じられるものになっています。水平ラインがホイールの上に伸びていますが、これには、伝説的な初代 quattro のブリスターデザインに対する微かなオマージュという意味合いがあります。サイドミラーは、ボディのショルダー部分に搭載され、フロントドアからリアドアにかけてブレードが走っており、そこに quattro のエンボスロゴが刻まれています。ほかの Audi Q モデル同様、リアハッチは、太くて急な傾斜を持つ D ピラーにまで回り込んでいます。

フロントでは、立体的に造形されたシングルフレームグリルに幾本もの水平バーが走っています。このグリルはフロントエンドと有機的に融合していて、その太いフレームが、キセノン、LED、マトリクス LED の 3 タイプが用意されたヘッドライトの縁まで広がっています。また、LED ヘッドライトのデータ

イムランニングライトは、2本の矢を形成するようなデザインになっており、最上級モデルのテールライトには、アウディのもうひとつの新機構であるダイナミックターンシグナルが採用されています。

### 新しいデザイン表現：トリムストリップとアドオンパーツ

新型 Audi Q7 に設定された 11 のエクステリアカラーのうち 4 つは新たに設定されたものです。ボディを飾るトリムストリップは、すべてマットアルミ仕上げになっていて、新型 Audi Q7 のスポーティでモダンな雰囲気を盛り上げています。ドアのインレイ（化粧材）やフロント及びリヤのアンダーボディプロテクションなどのボルトオン（追加で取り付けた）パーツも、シルバーペイント仕上げになっています。ベースモデルでは、バンパーの底部とホイールアーチに、ダークグレーのしぼ入りプラスチックパーツが使われますが、オプションで、それらのパーツをボディ同色仕上げにすることもできます。それらのボルトオンパーツとコーディネートする形で、ラジエターグリルも、オフロードで活躍する Audi Q7 のキャラクターを反映した新しい、少し階調のある（シルバー系）カラーで塗り分けています。

### インテリアデザイン

新型 Audi Q7 は、乗る人に、洗練されたエレガンスと広々としたスペースを提供してくれます。デザイン的にも簡潔で凝縮感のあるインテリアになっています。2 ピースのインレイには様々な材料のコンビネーションが用意されており、ドアのダブルアプリケーションストリップにより、軽快感が演出されています。

インストルメントパネルは、視覚的にセンターコンソールと分離されて、室内のスポーティ感と軽快感を高めています。ドアとインストルメントパネルの上部を連続させることで、ドライバーと乗員が、守られているような、深い安心感を味わえるようにしています。様々なコントロールを行うための装置類は、新型 Audi Q7 用にすべて特別に開発され、ドライバーが操作しやすい形ですべてセンターコンソールに収められています。操作系の形状と丸みが、インテリア全体のデザインとよく調和しています。エアベントのラインは、メーターパネルのほうに向いていて、ドライバー中心のデザインになっていることが強調されています。

アンビエントライトにはすべて LED を用いています。オプションで異なるタイプのアンビエントライトも選択可能です。インストルメントパネルのカーブ及びドアに沿ったとても細いライトが、全モデルに標準設定されています。モデルによっては、センタートンネルコンソールにも同様のライトが設置されます。今回から初めて、MMI でそのライトの調整を行えるようになりました。ライトの色を選べる仕組みも設定されています。

### さらに改善された居住性

全長が短くなっているにも関わらずクラス最大の室内長を実現した新型 Audi Q7 は、従来型より確実に広い室内スペースを提供してくれます。キャビンはヘッドルーム、ショルダールーム、ニールームともに拡大しており、同時に、広いスペースを柔軟に活用できる設計になっています。2 列目のシートは、背もたれが調整可能な 3 つの快適なシートユニットで構成されていて、必要に応じて、個々のシートを最大 110mm、前後にスライド調整することが可能です。このスライド幅も、従来型と比較して 10mm 長くなりました。

欧州で「グループ 3」規格のチャイルドシートとして認められている独立式の 3 列目シート（左右 2 席）も、従来型と比べて、ヘッドルームが 24mm、ショルダールームが 22mm 広がっています。シートを折り畳んだときは、シートバックがラゲージフロアと面一になり、C ピラーとラゲージコンパートメントに設置されたロッカースイッチを使って、電動パワーによりその高さを調整することができます。3 列目シートに座る乗員の乗り降りを容易にするために、2 列目シートは畳んで持ち上げられるようになっており、そうすることで 376mm 幅の乗降スペースが確保されます。2 列目及び 3 列目のすべてのシートに、ISO FIX 規格のチャイルドシート固定装置が装着されているため、室内には最大 6 つまでチャイ

ルドシートを搭載することが可能です。オプションのパノラミックガラスサンルーフを選択すれば、広い室内がさらに明るく開放感あるものになります。

7 席すべてに乗員が座った場合でも、新型 Audi Q7 のラゲージスペースは 295ℓ 確保され、3 列目シートを折り畳めば、その容量が 770ℓ に増えます。ラゲージコンパートメントの使い勝手を向上するために、ラゲージシルの高さは従来型と比べて 46mm も低くなっており、テールゲートは電動パワー式が標準になっています。また、リモートコントロールキーに加えて、テールゲートの中央下方で蹴る動作を行うことによりゲートが自動的に開く「ジェスチャーコントロール」の機能も用意しました。

#### **操作系、ディスプレイ及び室内装備**

操作ボタンやスイッチすべてに洗練されたアルミのフレーミングを施しています。その精密な仕上がりは、コックピットまわりのデザインを見事に引き立てており、ボタンの数が減ったことで、使いやすさも向上しています。フロントシートは、複数の仕様が設定されており、その選択に応じて、2 列目及び 3 列目シートのデザインも変更されることとなります。このフロントシートはスペース的にも構造的にも乗員にとって非常に快適な設計になっています。

#### **新開発のオートマチックエアコン**

新型 Audi Q7 には、贅沢な 4 ゾーン制御タイプのオートエアコンが搭載されます。従来のものと比べて、スイッチ類の数を減らしました。ディスプレイに示されるアニメーションのシンボル、ハイクオリティな TFT ディスプレイ、トグルスイッチなどにより、誰にでも分かり易くエアコンの操作ができるようになっています。温度表示はロータリーダイヤルのなかに現れます。インストルメントパネルの右側のゾーンには、クロームのアクセントで飾られた横長のエアベントが伸びており、その広い開口部より、間接風が少ない抵抗で流れ出します。外気導入、リサーキュレーションいずれのモードでも、エアコンシステムのフィルターが細かい浮遊物を捕捉してくれるため、室内のエアクオリティは常時高いレベルに保たれます。

#### **遊び感覚の簡単さ：新しい MMI の操作方法**

新しい操作方式を採用した最新世代の Audi MMI により、新型 Audi Q7 に搭載された数多くの便利で革新的な機構を、簡単な操作でコントロールできるようになりました。人工知能による助言機能を備えた最新鋭の MMI search により、検索などに費やす時間も短縮されました。ほぼすべてのエントリーを、わずか 2 つか 3 つのステップで完了することが可能です。

#### **触感によるフィードバック：MMI オールインタッチ**

操作系のなかでとくに注目に値するのは、新開発の大型タッチパッドを備えた「MMI オールインタッチ」のコントロールユニットです。ここででの入力にはすべて、音と触感によるフィードバック（指に伝わるクリック感）を伴います。ドライバーは大型のタッチパッドに指で文字を書きこんだり、2 本の指を使って地図画面のズームイン／アウトを行ったり、リストをスクロールしたりできます。主要な機能へのアクセスは、高精度のロータリープッシュボタンと 2 つのスイッチを使って行う一方で、自由にプログラミングできる 8 つのボタンを活用して、選択頻度の高いナビゲーションの目的地や電話ナンバー、ラジオ局など、お好み情報へのアクセスを簡略化することができます。

#### **洗練されたグラフィック：アウディバーチャルコックピット**

最上級のインフォテイメントシステムである MMI ナビゲーションプラスを搭載したモデルでは、「アウディバーチャルコックピット」を選択することができます。これは、きわめて鮮明で精密に仕上げられたグラフィックを提供する 12.3 インチの TFT ディスプレイ装置であり、ドライバーはステアリングホイールでの操作により、精密なアニメーションの丸型メーターが現れる「クラシックビュー」と、マップと選択リストが広い領域を占める「インフォテイメントビュー」のどちらかを選択することができます。さらに加えて「カスタムビュー」にすれば、オンボードコンピューターからの情報掲示を任意に設

定することが可能です。このフレキシブルなディスプレイ機能により、個人の好み及び運転状況に応じて、あらゆる情報が、素晴らしい映像効果とともに提供されるようになりました。

### **パワフルで高効率な TFSI エンジン**

新型 Audi Q7 には、パワフルで洗練された TFSI (過給器付きの直噴ガソリンエンジン) が搭載されます。2.0ℓ (直列 4 気筒) と 3.0ℓ (V6) の 2 タイプ用意されており、いずれも、細部に至るまで徹底した改良を施すことで、従来型に対し燃費とドライバビリティを大幅に改善しており、最高出力 / 最大トルクは 2.0 TFSI が 185kW (252PS) / 370Nm、3.0 TFSI が 245kW (333PS) / 440Nm を発揮します。3.0 TFSI の過給を司る機械式コンプレッサー (スーパーチャージャー) は、中間負荷では切り離されるようになっており、駆動抵抗を減らすことで燃料消費を削減しています。それにより、このエンジンを搭載した新型 Audi Q7 3.0 TFSI quattro は、0-100km/h 加速を 6.1 秒で加速し、最高速 250km/h に達する卓越したダイナミック性能を発揮する一方、NEDC (ヨーロッパの最新の走行サイクル) で、100km 走行あたり 7.7ℓ という優れた燃費効率も実現しており、CO<sub>2</sub> 排出量も 179g/km に抑えています。

### **8 速ティプトロニックと quattro フルタイム 4 輪駆動システム**

スムーズで速くて、軽量で効率的。新型 Audi Q7 では、新開発の 8 速ティプトロニックが、エンジンパワーを quattro フルタイム 4 輪駆動システムに伝達する役割を果たします。トルクコンバーター式のこのトランスミッションは、スムーズなシフトクオリティもさることながら、効率の面でも非常に優れています。ドライバーがアクセルペダルから足を離すたびに、フリーホイール機能が働いて無駄な燃料消費を減らします。新しいインジェクションシステムにより、1,000rpm 以下の極低速でも、スムーズに回り続けることができます。

オートマチックモードのほかに、ドライバーはステアリングホイールのパドルシフトもしくはセレクターレバーを操作して、任意にギアを選択を行えます。どちらの場合でも、変速のコマンドは、純粋に電氣的に伝えられます。

quattro フルタイム 4 輪駆動システムの根幹ともいえるセルフロックセンターディファレンシャルが、8 速ティプトロニックのハウジングに一体化されています。従来型モデルのトランスファーケースと比較すると、このユニットはかなり軽くてコンパクトな設計になっており、最適化されたロック率により、圧倒的なトラクションとハンドリング性能の実現をサポートします。通常時は、このセンターディファレンシャルにより、駆動力はフロント 40 対リヤ 60 の割合で分配されますが、どこか 1 輪がグリップを失った場合には、瞬時の判断により、フロントに最大 70 パーセント、リヤに最大 85 パーセントの割合で、分配率を調整します。また、このメカニカルセンターディファレンシャルは、電子的なディファレンシャルロック機構である「トルクベクタリング」と機能的に密接な連携が図られており、高速コーナリングでは中央のソフトウェアのプログラムにより、負荷が比較的少ないカーブの内側にあたるホイールに軽くブレーキによる介入を行います。それにより、ステアリングレスポンスがより俊敏で正確なものとなり、タイヤのグリップ力もフルに発揮されるようになります。

### **卓越した快適性とスポーティな敏捷性：シャシー**

新型 Audi Q7 は、多くの顧客にとって、きわめて快適な日常の足となるでしょう。スムーズで安定したクルージング能力により、ハイウェイでも乗員はゆったりくつろぐことができます。その一方で、郊外でも、扱い易く、正確で、かつ機敏なハンドリング性能を示し、さらに未舗装路に入っても、問題なく走り続けることができます。従来型モデルと比べると、エンジンの搭載位置を下げたことなどにより、車両の重心点は 50mm も低くなっています。

シャシーもまた、全面的に再設計されており、フロントとリヤのサスペンションは、従来型のダブルウィッシュボーンに代わって、いずれも 5 リンクになっています。リヤサスペンションに新しいエラストマーベアリングとダンパーと別個にマウントされたスプリングを採用したことで、さらに機敏な反応が

得られるようになりました。また、車速が上がるほどアシスト量が減り、同時にエネルギー効率に優れた電動パワーステアリングも今回初採用のメカニズムです。これにより、従来型と比べて低速での操舵力が軽減されるとともに、様々なドライバーアシスタンスシステムとの連携が可能になりました。

従来型と比べて新型 Audi Q7 のシャシーは、多くの改良により、合計 100kg 以上も重量を減らしています。例えば、サスペンションリンクは、ほとんどすべてアルミもしくは高張力スチール製となっており、フロント車軸のカルダンシャフトは中空タイプとし、ピボットベアリングにも鍛造アルミを採用して軽量化を図っています。

#### **最先端の革新機構：新開発の 4 輪ステアシステム**

新型 Audi Q7 シリーズには、画期的な革新機構である 4 輪ステアリングが設定されています。電動のスピンダルを用いたリヤのステアリング機構により、状況に応じて、後輪を最大 5 度切ることができるようになりました。低速では、前輪と逆方向に後輪をステアすることで、クルマの取り回し性を上げ、最大 1m も旋回半径を減らしています。その一方で高速では、後輪は前輪と同じ方向に切られますが、それによりステアリングレスポンスが良好になり、例えば緊急回避時などでの、クルマの限界的ハンドリング性能が高まります。

新型 Audi Q7 は、スチールサスペンションを備えた標準仕様でも、十分優れた快適性を提供してくれますが、新たに設置された制御ユニットによりコントロールされた「アダプティブエアサスペンション」を採用したモデルでは、乗り心地がさらに滑らかになります。新開発のエアサスペンションとアクティブダンパーの制御ユニットにより、状況に応じてダンパー減衰力だけでなくボディ高まで自動調整され、ハイウェイではボディ高が最大 30mm 低くなり、オフロードを低速で走る場合には逆に最大 60mm 上昇します。

#### **合計 7 つのレベル設定：アウディドライブセレクト**

全モデルに標準設定される「アウディドライブセレクト」は、アダプティブエアサスペンションと連動する形で、efficiency (Audi Q7 には初採用)、comfort、auto、dynamic、individual、allroad 及び lift/offroad の合計 7 つの走行モードが設定されています。このアウディドライブセレクトには、8 速ティプトロニック、電動パワーステアリング、4 輪ステアリング、及びエンジンの特性設定など、様々な最新のテクノロジーモジュールが融合されています。

新型 Audi Q7 は、18 インチアルミホイールと 265/65 タイヤの組み合わせを標準にしていますが、そのうちホイールについては、Audi 及び quattro GmbH から、最大サイズ 21 インチまでの幅広い選択肢が提供されています。大型のベンチレーテッドディスクを採用したブレーキにより、どの様な状況でも卓越した制動力が確保されます。前輪のブレーキには、6 ピストンのアルミ製キャリパーが採用されており、リヤホイールに働く電子パーキングブレーキには、便利なヒルホールド及びスタートアップの機能が付加されました。

新型 Audi Q7 はまた、最大 245mm の大きなグラウンドクリアランスと長いサスペンションストロークを活かして、厳しい条件のオフロードも難なく踏破することができます。ディスプレイに、ピッチ及びロールアングルの情報が表示され、下り坂では「エレクトロニックヒルデセントアシスト」により、安全な速度が自動的にキープされます。

※数値はすべて欧州モデル参考値